

車（乗物）の成聖祈祷

輔司誦

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。

常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。（三次）
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

司誦

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。（三次）

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ（三次）。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第九十聖詠

至上者の覆の下に居る者は、全能者の蔭の下に安んず、主に謂う、爾は我の避所、
我の防禦、我が頼む所の我の神なりと。彼は爾を獵者の網より、滅亡の疫より
脱れしめん、彼は其羽にて爾を覆わん、其翼の下にて爾危からざるを得ん、彼
の真実は楯なり、鎧なり。爾は夜の震驚と晝の流矢、闇冥に行く行、疫と正午
に暴す瘴疫を懼れざらん。千人爾の側に、萬人爾の右に仆るとも、爾に近づ
かざらん、爾只目を注ぎて不虔の者の報を見ん、蓋爾謂えり、主は我の恃なり
と、爾至上者を選びて、爾の避所と為せり。惡は爾に臨まず、疫、癘は爾の住所
に近づかざらん、蓋爾の為に其天使に命じて、爾の凡の路に爾を護らしめん、
彼等其手にて爾を抱えて、爾の足を石に蹶かざらしめん。爾蝮と毒蛇とを踐み、
獅と大蛇とを踏まん。彼我を愛するに因りて、我之を援けん、彼我の名を識るに
因りて、我之を衛らん。我を呼ばば、我彼に聴かん、憂の時我彼と偕にし、彼
を援け、彼を榮せん、壽考を以て彼に飽かしめ、我の救を彼に顯さん。
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

輔詠

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光榮は爾に歸す。(三次)
主に祈らん。
主憐めよ。

祝文

司

ヘルワイムに乗りセラフイムに座せる主、我等の神、睿智を以て人を飾り、爾の
尊き慮りにて凡の者を善に導く者や、爾此車(乗物)に降福し、爾の神使
を遣わして、是に乗りて旅行する者を安和に守り導き給え。恙なく旅を終えし
者が、爾に光榮と感謝を奉り、父と子と聖神との名を讃揚せんが為なり。
アミン。

詠

※(司祭は、車(乗物)の内外に聖水を灌いで曰く。)

司

此の車(乗物)は、此の聖水の灌がるるを以て降福・成聖せらる、父及び子及び
聖神の名に依りてなり。(三次)

詠

アミン。(毎時応答する)

輔 睿智。

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠 ヘルワイムより尊くセラフィムに並びなく栄え、貞操みさおを破らずして神言かみことばを生みし、
実の生神女たる爾を崇め讃む。

司 ハリストス神我等の恃たのみや、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

詠 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。
福を降せ。

司 ハリストス我等の眞の神は、その至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒
日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は
善にして人を愛する主なればなり。
詠 アミン。

幾歳も

（必要に応じて唱える。）

輔 主や、今新たに成聖せられし此の車（乗物）の前に立ちて祈る爾の僕（婢）〔某〕

に、萬福ばんふくにして平安なる度生、壮健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩よを與えて、
彼（等）を幾歳いくとせにも護り給え。

詠 幾歳も。（三次）

※（司祭は、聖十字架に接吻させる時、彼（等）に聖水を灌ぎ祝福する。）